

フランスの「最も美しい村」を訪ねて

パリ事務所次長 関 清一(茨城県派遣)

はじめに

日本において「村おこし」という言葉が叫ばれて久しい中、「フランスの最も美しい村協会 (Les plus beaux villages de France)」を範とし、2005年に7町村で発足した「日本で最も美しい村連合」には、現在、全国39町村が加盟、農山村の景観や文化を守る活動が進められています。一方、その範とされるフランスの協会には、現在156村が参加しています。

昨年秋、車を利用してノルマンディ地方の観光地へ向かう途上、ある「村」の標識に並んで特徴的な看板があることに気づき思わず車を止めました。この看板が「最も美しい村」の標識であり、以来、その村々の美しさに魅かれ、週末を利用して訪ね歩いています。



ここでは、「フランスの最も美しい村協会」の概要と、これまで訪ね歩いた「村」を旅行者の視点から報告します。

フランスの協会の概要

フランス協会は、フランス中央部のコロンジユ・ラ・ルーージュ村 (Collonges-la-Rouge) のシャルル・セイラック (Charles Ceyrac) 村長 (当時) の提唱により、良質な遺産を多く有する田舎の村の観光促進を目的に1982年に設立されています。認定の要件は次の3件といたってシンプルと言えます。

- ① 人口が2,000人以下であること。
- ② 保護・登録された遺産や建造物が2つ以上あ

ること。

- ③ 認定申請に当たりコミューン議会の議決を得ていること。

現在、フランス協会では、ホームページ、ガイドブック、ニューズレターの配信などを通じて広くPRが図られています。ホームページ上では各「村」の検索が容易にでき、それぞれの特色(いわゆる「売り」)、レストランや宿泊施設などの紹介の他、観光案内所の連絡先が掲載され、直接問い合わせることもできます。さらに、イベント情報が一つに集約して掲載されるなど、使い勝手の良いサイトになっています。

いくつかの特徴ある「村」を訪ねて

これまで訪れた「村」の数は156中12といまだ1割にもなりません。印象に残った「村」を紹介します。

① 【主要観光ルート上にある「村」】

ーブーヴロン・アン・オージュ (Beuvron-en-Auge) ノルマンディ地方 (人口226人)

パリの北西約180km、ノルマンディ地方特産のリンゴ畑の中にある村。当日、駐車場のバスから多くの日本人観光客が降りたてきました。話を伺ったところ、モンサンミッシェル (世界遺産) への日帰りツアーに組み込まれているとのこと。村内を慌ただしく回って、それこそあつという間にバスに戻って行きました。

この「村」には土産物屋とレストランが立ち並び、首都パリからモンサンミッシェルへの観光ルート上にあるという立地条件を活かし、大型バス



も停車できる広い駐車場に観光案内所を併設するなど多くの観光客を呼び込むための様々な工夫がなされています。

②【世界遺産をもつ「村」】

ーヴェズレー (Vézelay)

ブルゴーニュ地方 (人口483人)

12世紀に建造された世界遺産サント・マドレーヌバジリカ聖堂のある村。村の入口の駐車場から丘の上の聖堂に至る坂道には赤茶色の屋根と石壁の建物が並び、中世から時計が止まったかのような錯覚すらします。



世界遺産という大きな観光資源がありながらも、土産物屋が軒を連ねるような観光地と化しているわけではなく、周囲にはきれいに保全された家々から日常生活のにおいがする不思議な村です。

③【バラで飾られた「村」】

ージェルブロワ (Gerberoy)

ピカルディ地方 (人口96人)

パリの北方約100km、「バラの村」と呼ばれています。6月のバラ祭り前の時期でしたが、木組みにレンガを積み上げしっくい固めた家々にツルバラが競うかのように咲き誇っています。観光案内所の情報で訪れた村の奥にある教会は11世紀建造のまま保全されているとのこと。

官民が一致協力して、村内の貴重な資産を守りながら美化運動が進められていることを実感しました。



④【古城と清流のある「村」】

ーアングル・シュル・ラングラン (Angles-sur-l'Anglin) ポワトー・シャラント地方 (人口398人)

パリの西方約200km、水車のある清流アングラン川が村の中央を流れ、高台には崩れかけた城跡、傾斜地にひしめくように立ち並ぶ石造りの家々と、その景観の美しさに魅かれます。村内の広場で唯一開いていたカフェテラスに腰を下ろしていた際には、



時間のゆったりした流れを感じました。カフェのオーナーである若者が、目を輝かせて動いている姿が印象的でした。

⑤【銘菓製造拠点をもつ「村」】

ーフラヴィニー・シュル・オズラン (Flavigny-sur-Ozerain) ブルゴーニュ地方 (人口338人)

パリから南東方面へ約250km、巨大な石造りの門と城壁、石畳、石造りの家々と、石で取り囲まれた村です。この村には、パリの空港でも販売しているアニス風味のキャンディーの製造工場(ドラジェ社)と直販店があり、この日も店内は大変な賑わいでした。商品の説明書きによれば、14世紀にブルゴーニュ地方の修道院で作りはじめたもので、仏革命後に同社が伝統的な製法を守りながら製造しているようです。



これらの村々に共通して言えることは、それぞれが有する特徴的な資源を「売り」に、「村」の入口には無料駐車場、観光案内所には村内の地図のほか広域的な案内パンフレットも用意されています。さらに、広場には一休みできるカフェ、周囲には保全状態の良い家々と、行政と地域住民とが一体となった観光促進の取組みが進められていることを実感しました。こうした官民一体の取組みの実現には、フランスの基礎自治体であるコミューン(2011年現在の数; 3万6,791)の約7割が人口700人未満と小規模で、教会を中心とする住民の共同体意識の強さも背景にあるものと考えられます。

【関連サイト】

- ・フランスの最も美しい村協会 (Les plus beaux villages de France) ホームページ
<http://www.les-plus-beaux-villages-de-france.org/>
- ・日本で最も美しい村連合 ホームページ
<http://www.utsukushii-mura.jp>